

総合診療学Ⅱ

General Medicine/Family Medicine II

単位数：5単位

○総合医療学講座 教授の後任
熊倉俊一 教授：地域医療教育学
廣瀬昌博 教授：地域医療政策学

1. 科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
- 2) 医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
- 3) 地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて、基本的な技能と態度を身につける。
- 4) 信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。
- 5) 将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
- 6) 研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
- 7) 研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 解決すべき地域医療の課題を説明できる。
- 2) 地域医療の課題に対する解決策を列挙できる。
- 3) 海外と日本の医療の違いを概説できる。
- 4) 研究における倫理と利益相反を説明できる。
- 5) 自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
- 6) 良好な患者・医師関係を構築することができる。
- 7) 地域医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
- 8) 教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
- 9) 優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

総合診療学 I に同じ

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	医学教育特論 (低・中学年 (1年生～4年生) 医学教育)	総合医療学講座 教授の後任
2	シミュレータ教育 (1) 医学教育とシミュレータ	総合医療学講座 教授の後任
3	シミュレータ教育 (2) 総合医に必要な診療技術修得とシミュレータ教育	総合医療学講座 教授の後任
4	看護と地域医療 (1) 総合医育成と看護	総合医療学講座 教授の後任
5	看護と地域医療 (2) 総合診療と看護	総合医療学講座 教授の後任
6	介護・福祉と地域医療	総合医療学講座 教授の後任
7	医療行政と地域医療特論 A 地域医療構想と医療行政	総合医療学講座 教授の後任
8	医療行政と地域医療特論 B コミュニティの成長における医療行政の役割	総合医療学講座 教授の後任
9	医療情報システム学特別講義	総合医療学講座 教授の後任
10	実用医用統計学 (1) 健康に関する統計学の概念と基本 (講義)	廣瀬昌博
11	実用医用統計学 (2) 研究遂行の実践手法 (ワークショップ)	廣瀬昌博
12	地域における健康増進・疾病予防	熊倉俊一
13	地域における医療提供体制のあり方	熊倉俊一
14	地域の医療を担う人材の育成と支援	熊倉俊一
15	地域医療を守る住民活動	熊倉俊一